

JEEFの トピック

TOPIC

夏・秋

JEEFの活動の最新注目トピックをご紹介します!今期も「体験と対話を重視した環境教育」をさまざまなかたちで提供しました。

ひとり親家庭のための プログラム実施

東京マラソン2024チャリティの寄付金を活用させていただき、「誰ひとり取り残さない環境教育」の一環として、ひとり親家庭向けの自然体験プログラムを東京都(認定NPO法人アースマンシップ)、山梨県(公益財団法人キープ協会)、千葉県(NPO法人千葉自然学校)、北海道(NPO法人大雪山自然学校)の4か所で実施しました。大人は子育てや仕事で忙しい日々をしばし忘れて、自然に癒されながら自分と向き合う時間を、子どもたちは興味のあることを見



つけて挑戦し、成長できる時間をもてるよう一昨年から実施しています。

子どもが自然のなかで得る学びの重要性は、さまざまなところで言及されています。一方で厚生労働省「令和3年度全国ひとり親世帯等調査」によると、日本の約134万世帯がひとり親家庭で、経済的・時間的理由などによって、子どもの体験格差が生じていることが懸念されています。JEEFでは、様々な形で頂戴したご寄付や会費を活用させていただくにあたり、身体的理由や経済的・地域的な理由などで、これまで私たちのプログラムに参加する機会のなかった方々との出会いの場を増やしていきます。今回はひとり親家庭ですが、今後も対象を広げて、一人でも多くの方が自然とふれあう機会を作っていきます。

第25回 日中韓環境教育 ネットワーク(TEEN25) を日本開催

日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)は、2000年の日中韓環境大臣会合にて、市民レベルの環境共同体意識の向上を具現化するプロジェクトとして始まりました。環境教育に関する情報交換を通じて、日中韓の環境教育ネットワークを推進し、ひいては三か国における社会の環境意識を向上し、持続可能な社会の構築に資することを目的



としています。JEEFは本年度のシンポジウムやワークショップの事務局を担いました。(環境省主催)第25回のテーマは「過去から現在、未来をつなぐ脱炭素社会実現へのロードマップ」。シンポジウムでは東京大学未来ビジョン研究センター教授の江守正多さんの基調講演と、日本・中国・韓国のそれぞれから、各国の政策報告及び実践事例の報告を行いました。

海の科学者講座 2024の開催

海洋プラスチック問題について学びたい小中学生を対象とした、3日間連続の講座を横浜市内で開催しました。ビーチクリーンで拾ったごみを分析して、生き物への影響や、どんな人がどんな理由で捨ててしまったごみなのかを考え、SUPに乗って大岡川に浮かぶごみの回収にチャレンジしました。横浜・八景島シー

パラダイスでは、自ら釣った魚が捌かれるのを観察して、マイクロプラスチックが魚の体内でどのように動くのかを考察することも行いました。それぞれの体験やごみを分析することで、街・川・



海のつながりについて理解を深めるとともに、子どもたちは家に帰って、それぞれプラスチックごみ削減アクションに取り組みました。小さな「海の科学者」たちの活躍を期待しています。

ELMSセンターでは、ジョンソン株式会社からの支援によって、横浜市における海洋プラスチック環境教育プログラムを展開しています。お近くの方はぜひご参加ください。

大学生グリーン ミーティング2024 つながる！広がる！ 環境学生ネットワークの開催

環境やSDGsに興味・関心のある関東の大学生・大学院生同士がつながるための交流イベントを開催しました。(主催：環境再生保全機構全国ユース環境ネットワーク事務局)

前半はNPO法人新宿環境活動ネット代表理事の飯田貴也さ

ん、NPO法人ezorockコーディネーターの水谷あゆみさんの2名を講師にお招きして、環境NPOの仕事とキャリア形成についてのお話を伺いました。後半は環境やSDGsに関する活動を行う団体・サークルの活動紹介と、大学生同士の交流タイム。互いの日々の取り組みを紹介や、活動へのヒントを得たりしている様子が見られました。今回つながったネットワークによって、彼らの活動も広がっていくことを期待しています。

文：垂水恵美子 (JEEF)

